



第36回鳥学講座「アホウドリ：絶滅寸前から1万羽に回復」を開催します

- ・（公財）山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館は、11月7日（土）に第36回鳥学講座を開催します。
- ・ 講師に長谷川 博先生をむかえ、「アホウドリ：絶滅寸前から1万羽に回復」と題してお話しいたします。
- ・ 本講座は11月7日（土）・8日（日）に行われるジャパンバードフェスティバル2026の参加行事です。

（公財）山階鳥類研究所と我孫子市鳥の博物館は、毎年11月に2日間にわたって行われるジャパン・バード・フェスティバルの参加行事として、鳥学講座を開催しています。本年のジャパン・バード・フェスティバルは11月7日（土）・8日（日）に行われます。鳥学講座は第36回を数え、初日の11月7日（土）に開催します。

今年は講師に長谷川 博先生をむかえ、「アホウドリ：絶滅寸前から1万羽に回復」と題してお話しいたします。



長谷川 博先生（最後の鳥島調査で、2018年12月）

◆第36回鳥学講座 開催概要

タイトル：アホウドリ：絶滅寸前から1万羽に回復

講師：長谷川 博（はせがわ ひろし）東邦大学名誉教授

日時：2026（令和8）年11月7日（土） 13時30分～15時00分（開場 13時00分）

場所：我孫子市生涯学習センター「アビスタ」1Fホール（定員：120名）

千葉県我孫子市若松26-4

会場までの交通：JR常磐線 我孫子駅南口より徒歩10分

参加費：無料（当日先着順）

主催・問い合わせ：我孫子市鳥の博物館（電話04-7185-2212）、
（公財）山階鳥類研究所（電話04-7182-1101）



公益財団法人 山階鳥類研究所

内容紹介

大型の海鳥アホウドリは羽毛採取のために乱獲され、1949年に絶滅したと信じられた。しかし、1951年に伊豆諸島鳥島でごく少数の生存が再発見され、ようやく保護されるようになった。1976年の秋、ぼくは中断していた繁殖状況の調査を再開し、その後42年間にわたって継続した。その最初の年、ひなはわずか15羽で、観察した成鳥・若鳥は71羽だった（つがい数は約42組、総個体数は200羽未満と推測）。最後となった2018年には、つがい数が1,011組になり、1,645羽の成鳥・若鳥を観察し、総個体数は5,165羽と推定された。その間の集団統計資料から、繁殖集団は指数関数的に成長し（しかも加速）、後期には年成長率9.12%だったので、8年で倍加し、2026年に10,000羽を超えると予測された。

その後の山階鳥類研究所の調査で、2026年に10,000羽を超えたことが明らかにされた。いまのところ成長率への抑制効果は見られないので、繁殖集団は今後もしばらくの間、8年で倍加すると予測される。

講師紹介

長谷川 博（はせがわ ひろし）

1948年静岡県生まれ。東邦大学名誉教授。

京都大学大学院で動物生態学を専攻し、1977年から2014年まで東邦大学理学部に勤務。

絶滅危惧種アホウドリの繁殖状況調査と保全研究に取り組んだ。

この件についてのお問い合わせ先：

公益財団法人 山階鳥類研究所

千葉県我孫子市高野山115

電話：04-7182-1101

担当：広報 山岡（Eメール：pressrelease@yamashina.or.jp）

・写真のデジタルデータをご希望の方もお問い合わせください。